

——新聞OBわが人生・新聞OB会結成 30 周年記念——

合同自費出版『オレンジの旗』第 10 集刊行へ

新聞・通信社OBによる「語り部活動」の集大成
次世代に伝えるべき手記など、広く募ります

3月11日の東日本大震災は、戦後最大の大災害となりました。犠牲になられた方々に謹んで哀悼の意を表し、被災されたみなさんに心からお見舞い申し上げます。

また、東京電力福島第一原子力発電所でおきている危機は、なんとしても収束させるために政府、東京電力などには全力を投入してもらいたいと思います。そして現在、14基以上の原発の新增設計画がありますが、即刻計画を中止し、原発依存から自然エネルギー活用への戦略的な転換をはかるべきだと考えます。



新聞産業の退職者懇談会（略称・新聞OB会〈東京〉）は、「社会の木鐸」と呼ばれた新聞・通信社で働いてきた退職者の親睦組織です。新聞OB会結成10周年を記念して1992年に合同文集『オレンジの旗』を初めて刊行しました。これ以来、全国の新聞・通信社を退職した方々だけでなく現役の多くの方々の激励に支えられ「第9集」まで刊行してきました。

合同文集『オレンジの旗』を発行した目的は、厳しい労働環境の中で深夜勤務の連続や、労働条件の改善のために日夜取り組んできた生きざまを、多くの後輩や子々孫々へ伝えて行く「語り部活動」と意義付けてきました。

新聞OB会（東京）は2012年9月、結成から30周年という記念すべき年を迎えます。実は、2008年9月に「第9集」を刊行して以来、会員・会友だけでなく全国のみなさんから「語り部活動としての合同文集『オレンジの旗』は、継続して刊行しないのか」という、激励と発奮を促す声が届いていました。

新聞OB会はこれらの声援に応え、結成30周年を記念して『オレンジの旗』第10集を刊行しようと決意し、そのため「出版委員会」をスタートさせ、新聞OB会第29回総会で刊行を再確認しました。

刊行のスタイルはこれまで通り、出版費用を執筆参加者が分担する「合同自費出版」方式を継承することといたしました。

われわれの世代には、常に新聞ジャーナリズムの危機がまとわりつき、あの忌まわしい侵略戦争に加担した反省が実らないままの状態が、今日まで続いています。

さらに、期待された一昨年「政権交代」も多くの国民の願いを裏切り、対米従属一辺倒と「軍拡」を企図する財界と決別できない状況が続き、国民にとってはもちろん、次世代の人々の生きる道が、極めて悲惨な方向へ進もうとしています。

再び、あの「暗黒時代」に逆戻りさせないためにも、「語り部活動」は重要です。

新聞・通信社OBのみなさん。刊行要領をご理解いただき、奮って手記をお寄せくださるようよろしくお願い申し上げます。

2011年4月

新聞OB会（東京）出版委員会